

青谷木綿の魅力伝えようと機織りを実演する生徒



木綿の制作実演も

青谷高生が研究成果披露

駅里の楽道気

青谷高（鳥取市青谷町青谷）の3年生が課題研究の成果を披露する「あおこうまるしえ」が、同市鹿野町岡木の道の駅西いなば気楽里で開かれた。生徒らは開発した自然酵母の菓子の試食や、木綿作品の制作実演などで学びを披露。地元住民や観光客に青谷町の魅力を発信した。

課題研究は地域課題を調査研究し作品制作などを行う授業で、同まるしえの開催は2年目。八つのテーマごとにブースを設置した。江戸から明治時代に青谷港から出荷された「青谷木綿」を研究する班は、機織り機で作品作りを実演。自然豊かな青谷町に生息する植物や水生生物の調査結果や、生徒が考案した魚を使った料理レシピなどを説明する班もあり、生徒らは来場者との交流を楽しんだ。

近くに住む介護士の女性（58）は「青谷高生が元気に活動して地元の勉強をしていることが分かりうれしい」と笑顔。3年の小山実久さん（18）は「学んだことを発信できてうれしい。青谷町の良さを知ってほしい」と充実した表情を見せた。

（松本妙子）

【本社HPに動画】